

世界旅打ち気分

●第62回・ブリスベンの外口場2場

須田鷹雄



写真1) ドゥーンベンのコース上からスタンド方面を見る



写真2) イーグルファームのインスタ映えクッションエリア



写真3) イーグルファームではファンのすぐ目の前を出走馬が入り出す

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

「この連載も長くなってきたぶん、在庫」が枯渇しつつある。キャラクタリーのない競馬場でもよければまだ触れていない競馬場はあるのだが、それでは原稿がつまらないものになってしまふ。

国別でいうと、まだ比較的在庫があるのはオーストラリア。世界でいちばん競馬場の数が多い国だし、筆者は「10ヶ月前に1ヶ月の集中旅打ちをしたので、訪問場のストックがある。」

ちなみに筆者は、オーストラリアのセリ会社や生産者団体の提供で制作された、YouTubeの「1から学ぶオーストラリア競馬」という動画に出演しているのだ。そちらもぜひご覧いただきたい。オーストラリアそのものと現地競馬の基本を踏まえ、たうえて本連載のオーストラリア系原稿を読んでいただく、より理解が深まるだろう。

今回はクイーンズランド州のブリスベンにあるドゥーンベン競馬場とイーグルファーム競馬場を紹介したい。

この競馬場、一本の道を挟んで両サイドにある。「%」という字の斜線がナジロード道路という道

路で、2つのOが競馬場だと思つてもらえよ。

なぜ「のような超近距離に2つの競馬場があるか」ということ、かつては主催者が別々だったということのようだ。当たり前のことだがこの狭い範囲で2つの場が競合すること、経営不振に繋がり、いろいろあつていまでは両競馬場ともブリスベンレーシングクラブの運営となっている。

オーストラリアは競馬場の格付け(正確には開催の格付け)として、上からメトロ、プロヴィンシャル、カンタリーという区分がある(他のアマチュア騎手限定のピクニック競馬というものもある)。ドゥーンベンとイーグルファームはともにメトロ場であり、つまりはクイーンズランド州を代表する競馬場ということになる。

州都にメトロ場が2つというのは西オーストラリア州も同様だが、西オーストラリアのペースにある2つのメトロ場、アスコットとベルモンは開催時期が完全に分かれており、一度の訪問で両方を踏破することはできない。しかしドゥーンベンとイーグルファームは時期による棲み分けをしておらず、同じ

週にそれぞれの開催があるというケースも見受けられる。一度のブリスベン訪問で両方を踏破できるのは魅力である。

この2つの競馬場は、ともにブリスベンの中心部から列車で一本であり、ブリスベンは競馬場のすぐ前にアスコットという名前の駅があり、ドゥーンベンは駅前も同じドゥーンベン駅から1ブロックのところにある。海外で車を運転できない・したくないという人にとっては行きやすい競馬場だ。

特にイーグルファームに隣接するアスコット駅は古い施設がそのまま残っている。これまた古いスタンドが残っているイーグルファーム競馬場とセットで「クイーンズランド州遺産」に登録されている。なので、現地に行く機会があつたらその点も意識してご覧いただきたい。

一方のドゥーンベンは、車で行くのもおすすだ。一般客は内馬場にある駐車場に停めることになるが、トンネルが掘られているわけではないのでコース場を車で横断することになる(イーグルファームも一般駐車場は内馬場にあるが、こちらはトンネルをくぐる)。スタン

ドへ向かうときは徒歩でコースを横切る。帰りはその逆である。つまり、コース上を歩くという経験ができるのだ。JRAの競馬場では開催終わりに馬場開放があつたりしてファンに人気だが、「ミニ馬場開放」をいつでも楽しめるということになる。

ではないので、閉まっていることもある。おそろしく貼紙がしてあると思うが、馬主に席券を発行する受け付けに行つて「すいません、商品買いたいでギフトショップ開けてください」と言うのと開けてくれる。正直そこまでそそれるギフトはないのだが、日本人競馬ファンはグッズ好きなので記しておく。

あるのはイーグルファームだ。馬場に入るとき、レースを終えて戻るときに各馬は外手沿いにある通路を通る。そのあたりに構えていれば、ファンは目と鼻の先で出走馬を見ることができの。スタンドとコースの間にある一般エリアにはパソルと椅子もふんだんに用意されており、G1開催日などはさすがに混むの。だが、ふだんの開催はレースに行けば確実に居場所を確保できる。開門ダッシュだ。なんだが必要ないので気持ちに余裕も持てる。

ドゥーンベンのスタンドは昔ながらのものといつわけではなく、80年代の公営競技場によくあるような無骨なタイプ。施設としての面白みがあるわけではないが、ヒフ開催だとメンバーエリアと一般エリアの区分けが緩くなり、いろいろな場所が競馬を楽しむことができる。パドック(オーストラリアではマウンティングヤード)のすぐ近くに馬券売り場兼バーがあるのだが、おそらく正式にはメンバーエリア、しかし一部開催日は普通の入場者が入ることもできる。ここに入れるときはおすすめ観戦スポット。夏の開催は空調の効いた部屋にいないと体も参ってしまう。

話をイーグルファームに移そう。もし2場のうちどちらか片方しか行けないとしたら、イーグルファームのほうがおすすめです。前述したように駅とセットで遺産登録されるような由緒あるスタンドだし、それでいて現代風にリノベーションされている部分もある。

歴史を伝えるのはスタンド本体だけではない。マウンティングヤードの近くには古いオッズ板も残されている。場内を歩き回るといろいろな見どころが見つかる。

その一方でインスタ映えを意識したところもある。札幌競馬場のように「ここで写真を撮ってください」的なインスタ映えポイントもあるし、ヨギボー的なクッションが置いてあるコーナーもある。

イーグルファームでひとし難点があるとすれば、メンバーエリアがしつかり区分けされていて観光客は入れないことだ。メンバーへの関所もなかなか雰囲気があつて「この先はどうなっているだろう」と関心をそえられるのだが、入れないのだから見ようがない。

メンバーシップ(年間会員権)はいくらか今回調べたが、ドゥーンベンと共通で3100豪ドルから約1000豪ドルの訪問のため、一回だけの訪問のために買うのはもったいないが、もし海外駐在でブリスベンに住むような機会があつたら挑戦していただきたい。

ギフトショップがあるのもドゥーンベンの長所だ(筆者の知る限りイーグルファームにはない)。ただ日本でいうターフィッシュショップのようにグッズがどんどん売れるわ

レースを見るときもより迫力が

機会があつたら挑戦していただきたい。